

「歌と法話」に参加者ら感激 ～教区内3ブロックで約800人が参加～

教区内を3つのブロックに分けて開催されている門信徒総研修会が相次いで開催され、今年はとくに歌や演奏が行われる中に法話が織り交ぜられるなど、参加者らはひと味違った集いに満喫していた。

同研修会は去る3・4日には第1（鷺森別院）第3ブロック（日高別院）で開催され、近畿同朋運動推進協議会の花岡道子会長（奈良教区勝光寺住職）が「私の学んだこと」と題し法話。また、11日には現在多方面で活動している法話楽団・迦陵頻伽（写真）の「歌と法話の集い」がきびドームで開かれた。今回は同楽団代表で法話とボーカルを担当する西脇顕真さん（東海教区普元寺副住職）とクラシックギターを担当するプロデューサーでミュージシャンの山背隆文さん（真宗大谷派善福寺副住職）の2人による演奏が披露され、アコースティックな音色が流れる中、法話が話されるなど、また参加者全員で「七つの子」「故郷」などを唱和、これまでの集いとはひと味違ったものとなり、参加者らは「やさしい音色の中でありがたいお話が聞けてうれしかった。また聞かせてほしい」と口々に話していた。



発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 佐々木 孝昭

— 原稿を募集します —
各組、各寺院で開催された行事や活動等、教区報に掲載して欲しいというものがあれば、どしどし教区報編集委員会まで寄稿ください。また、事前にご連絡いただければ、取材に伺います。

2005年度

和歌山教区基幹運動計画

1. 目標

御同朋の社会をめざして

2. スローガン

「念仏の声を世界に
子や孫に」

—おかげさまでありがとうございます—

3. 基本方針

「基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）は、教団や社会の現状から目をそむけず、み教えに問い聞きながら、同朋教団の再生・御同朋の社会の実現をめざす運動である」ことを体して、教区内に基幹運動の推進をより一層展開し、全員聞法・全員伝道を実現すべく、門信徒・僧侶の一人ひとりが伝道教化活動に取り組もう。

4. 研修テーマ

「いのち きびしく あたたくく」
—いのちの尊厳を、御同朋の視点から、そのきびしさとあたたかさとともに学んでいく—

5. 活動

- ① 寺院教化活動の活性化を図るために、ご本尊を中心とした家族生活をすすめる、文書伝道や話し合い法座を展開し、人びとの悩みに応える活動を展開しよう。
- ② 七月九日を「平和の日」と位置づけ、いのちの尊厳を護る取り組みをすすめる、戦争・ヤスクニ・人権・環境などの平和や社会の問題に取り組もう。
- ③ 私と教団の差別の現実を改め、「信心の社会性」を明らかにするとともに同朋教団の確立をめざそう。
- ④ 来る二〇一一（平成二十三）年の親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けて、浄土真宗のみ教えが、今を生きる私たちの依りどころとなり、お念仏の輪が益々拡がるよう、取り組みを進めよう。
- ⑤ 『浄土真宗の葬儀とお仏壇』の

啓発資料をもとに、葬儀にまつわるさまざまな迷信・俗信が差別の現実であることの学びを深め、迷信・俗信を打破すべく運動を展開し、浄土真宗の教えにふさわしい葬儀のあり方を広く徹底しよう。

6. 具体的活動項目

- ⑥ 社会福祉活動・ビハラー活動へ積極的に取り組み、社会的実践活動への参画と地域福祉活動の推進に努めよう。
- (1) 教区基幹運動推進委員会設置規則に基づく、組基幹運動推進委員会の充実をはかる。
- (2) 時代に即応する教学の研鑽と研修会への取り組み
- ① 住職・僧侶の研修② 坊守・寺族婦人の研修③ 寺院子弟の研修④ 責任役員・門徒総代の研修⑤ 壮年・婦人の研修⑥ 青少年の研修
- (3) 御同朋の社会をめざし、同朋運動を推進する上から、同和問題その他人権にかかわる諸問題への取り組み
- ① 各種研修会における同朋運動の
- ① 門徒総代会の研修② 連研のための研修③ 連研講師研修会④ 連研修了者研修会⑤ 連研修了者の中央教修への参加促進⑥ 門徒推進員連絡協議会の充実・発展⑦ 教区報の発行
- (5) 門信徒会運動を推進し、全員聞法・全員伝道を実現すべく門信徒、僧侶の一人ひとりが伝道教化活動並びに社会福祉活動・ビハラー活動への取り組みと組織教化団体の充実発展をめざす。
- ① 少年連盟② 仏教青年連盟③ 寺族青年連盟④ 仏教婦人会連盟⑤ 寺族婦人会連盟⑥ 仏教壮年会連盟⑦ 保育連盟⑧ スカウト⑨ 本派社推協和歌山教区支部⑩ ビハラー和歌山
- (6) 布教の拡充強化をはかる
- ① 布教団② テレホン法話の充実
- (7) 法要儀式・勤式作法の研修

研修② 組同朋運動の研修③ 寺院における同朋運動の取り組み④ 近畿同朋運動推進協議会（略称・近同推）への積極的参画⑤ 同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会（略称・和歌山県同宗連）への積極的参画

(4) 寺院機能振興を図る上から門徒総代、門徒推進員等と連携をはかり、連研の推進と広報活動の推進。

教区基推

基幹運動

五カ年計画最終年度

三つのポイントへの取り組みを強化し、更なる運動推進へ

教区基幹運動推進委員会では、委員の任期満了に伴い、三十七人の委員、六人の顧問が委嘱された。六月十七日、鷲森別院に於いて総会が開催された。

総会では、各委員の自己紹介、役員の選出が行われ、新副会長に中山祐昭さん(組長会副会長)と藤本恵英さんが就任した。また、後日各専門部会が開催され各部長・副部長の選出が行れた。今年度は私と教団が抱える差別の現実から出発した基幹運動五カ年計画の最終年度に当たり、①門信徒と僧侶の課題の共有②御同朋の願いに応える教学の構築③同朋教団の

再生の三つのポイントの課題の取り組みを進め、来る宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に向けお念仏の輪が益々拡がるよう更なる運動推進への決意を新たにしました。

委員並びに構成は次の通り。

- 会長 佐々木孝昭(教務所長)
 - 副会長 中山 祐昭(和歌山北)
 - 顧問 藤本 恵英(伊 那)
 - 顧問 蘭田 香融(和歌山)
 - 顧問 岡 亮二()
 - 顧問 藤下 恒庸()
 - 顧問 北畠 利親()
 - 顧問 藤範 信彦(伊 那)
 - 顧問 内芝 善明(日 高)
- 【第一専門部会】(教学研修部会)
- 部会長 松本 教智(海 南)
 - 副部会長 梶 信隆(紀 南)
 - 委員 下間 信男(和歌山東)
 - 委員 中牟田貞夫()
 - 委員 中山 祐昭(和歌山北)
 - 委員 河野 英俊()
 - 委員 刀禰五十鈴(伊 那)
 - 委員 藤岡 大祐()
 - 委員 清水 正宣(御 坊)
 - 委員 庵戸 常盤(紀 南)

- 【第二専門部会】(同朋部会)
- 部会長 木村 俊隆(和歌山東)
 - 副部会長 佐々木俊紀(御 坊)
 - 委員 釘貫 祐彰(和歌山)
 - 委員 北氏 緋紗(和歌山北)
 - 委員 森 俊男(海 南)
 - 委員 荻野 昭裕()
 - 委員 刀禰 諦存(海 草)
 - 委員 笠井 照導(有 賀)
 - 委員 荻野 益次(日 高)

- 【第三専門部会】(寺院振興部会)
- 部会長 岡 京子(和歌山)
 - 副部会長 宮崎 渉(和歌山北)
 - 委員 和田 真人(和歌山)
 - 委員 中谷 真澄(和歌山西)
 - 委員 田中 直人(海 南)
 - 委員 藤本 恵英(伊 那)
 - 委員 竹中 康夫(有田南)
 - 委員 近藤 昌信(有田北)
 - 委員 岩崎 法明(日 高)

- 【第四専門部会】(組織教化部会)
- 部会長 稲垣 貴史(海 草)
 - 委員 島 和夫(和歌山)
 - 委員 内藤 順一()
 - 委員 谷口 寿博(加 茂)
 - 委員 藤澤 勝美(海 南)
 - 委員 長谷川義則()
 - 委員 山中 英子(伊 那)

委員 林 秀信(有田南)

専門委員会は、次の通り。

①組相談員協議会

■目的

組相談員相互の連携を密にし、組基幹運動を推進する。

②教区報編集委員会

■目的

教区報の編集と発行。

③教化団体等役員協議会

■目的

各団体における横のつながりを密にし、基幹運動を推進する。

⑤社推協・ビハーラ協議会

■目的

福祉活動の分野から連絡を密にし、活性化を図る。

なお、任期は、二〇〇五年度～二〇〇六年度の二ヶ年。

鷺森テレホン

紙上法話

榎本 宗雄

(和歌山教区 本願寺派布教使)

今年もお彼岸が近づきましたので、ご一緒に考えてみましょう。お彼岸の中日を中心として前後三日間を合わせた七日間に行われる仏事であります。お彼岸とは迷いの此の岸から悟りの彼の岸をさしています。

私たちはお寺に参詣し、お墓参りし、僧侶の読経と法話を聴聞して仏事に参加をします。

インドや隣の中国には見られず、日本のみに行われて、その起源は古く聖徳太子のころともいわれています。

孟蘭盆会とともに、最も広く民衆の中に溶け込んだ仏事です。一年に二度の春・秋の好季節と昼夜の時間を同じくし、真東より真西に太陽が出没するこの時季に、日常生活を反省し、仏道に勤しむ機会として、この法要が定められたものと思われれます。

無条件の救い

此の岸(この私の住む世界)から彼の岸(仏さまの真実の世界)へ渡ることはそうたやすいものではなく、仏教では六つの徳目を実践することが説かれています。即ち、布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧です。これらが仏さまに近づく行いといっています。

その第二の持戒に、私たちの日常生活の最も基本的な

のとして五つの戒があり、その初めに、生き物のいのちをとらないことが記してあります。お釈迦さまのお言葉に「自分よりさらに愛しいものはない。同じように他の人々もそれぞれ自分が愛しい。それ故に自分を愛するものは、他をものを害してはならない」と述べられています。共に生きること、これが仏の教

えの基本です。

しかし、私たちは一日たりとも生き物のいのちを取らずには生きられません。食前に手を合わせていただきます。

私たちには戒めとするものはありません。なぜでしょうか。阿弥陀さまのお救いは、私たちにどんな条件もつけていない無条件の救いだからです。阿弥陀さまのおはたらきは、それほど素晴らしいものです。声高らかにお念仏を申して合掌・礼拝させていただきますみましょう。

鷺森テレホン 法話

24時間いつでもどこからでも3分間法話が聞けます。

(法話は毎月一日・十五日に変わります)

073-422-0243

おにしさん

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の円成に向けて

全国のトップを切り

総局巡回開催される

二〇一一年(平成二十三)年四月から翌年一月までご修行される「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」にかかる総局巡回が、九月一日鷺森別院本堂で開催された。

今回の総局巡回は、全国三十一教区のトップを切つて和歌山で開催されたもので、同法要の趣旨、並びに振興計画の内容を教区内の人びとに広く知ってもらうために本山が開催したもので、桑羽隆慈総務、普賢保之随行講師、本多隆朗中央法要事務所長が出向した。

午後一時から第一部の式典が行われ、参加者全員で正信偈をお勤めし、総局を代表して桑羽隆慈総務があいさつした。

同総務は「このたびの大遠忌法要では、親鸞聖人のご恩を偲ぶと同時に、将来にわたり宗門の新しい展望が開けるよう今このご勝縁に遇ったもの同士が力を合わせ、のちに続く人たちに聖人のおみりを伝えていきたい」と述べた。

引き続き、随行講師である普賢保之師(司教・龍谷大学教授)の法話が行われた。

第二部の推進の集いでは、桑羽総務より先の第二七八回臨時宗会で可決承認された「親鸞聖人七百五十回大遠忌宗門長期振興計画」(以下振興計画という)について趣旨説明が行われた。

続いて本多法要事務所長が「振興計画」の概要説明を行い、ご門さまの「ご消息」のおこころを休して「新たな始まり」明日の宗門の基盤作



り」をコンセプトと標示し、その目標として第一に「同法要の御修行」、第二に法要を機縁とし「現代社会に応える教学・伝道態勢の構築とみ教えに生きる「人」の育成」と定め、明日の宗門の基盤作りとして推進し、さらにその目標を具体化する計画の概要を次のように掲げている。

一、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の修行と記念行事の推進

① 法要の修行

② 記念行事等の推進

③ 協賛行事

二、教学・伝道の振興

④ 伝道態勢の整備

⑤ 時代に即応する教学の振興

⑥ 新たな門徒の誕生(教線の拡充)

⑦ 国際伝道の推進

三、寺院活動の推進

⑧ 寺院の活性化対策

⑨ 過疎・過密対策

四、社会的活動の展開

⑩ 地域社会との交流

⑪ 現代社会への貢献

五、次代を担う「人」の育成

⑫ 人材育成の新規対策

⑬ 既存の人材育成施策の強化

六、宗務機能の整備・拡充

⑭ 宗務機能の点検と拡充

⑮ 境内地等の整備

以上の十五の重点項目を提起し、大遠忌準備委員会において提案・集約されてきた二十七にわたる推進事項によ

り、具体的にこの「振興計画」を強力に進めていくとの説明がなされた。

また、安部法要庶務部長から二〇〇五(平成十七)年八月一日から二〇〇七(平成十九)年三月三十一日までの三期十二年度の間執行される振興計画推進費収支計画が説明され、総額二百六十億の予算報告が行われた。

続いて、協議会では、参加者から様々な要望や質疑がなされた。当教区が抱える過疎寺院や寺院後継者問題への具体的対応策などへの質問や青少年育成のための大幅な予算増など、ご門徒の大切なご懇念を慎重かつ有意義に使用していただきたいと要望があった。また、早期に宗門全体が大遠忌ムードになるようポスターなどの配布を急いで欲しいとの声が上がった。

なお、教務所長より当教区への門徒懇志以来額が四億二千四十七万円で、今後九月十四日の常備会、十月十四日の教区会で法要体制等の区令を整備・制定し、組織作りのうえ、各寺院への懇志依頼額を決定していく予定であるとの報告があった。

最後に参加者を代表して中山祐昭基推委副会長・組長会副会長が大遠忌の円成のため、教区内僧侶・門徒が一体となり「振興計画」の推進・具現化に向け鋭意取り組んでいきますと決意表明を行い終了した。

動きあるお寺をめざし 総代会研修

去る八月二十三日に鷺森別院において門徒総代会研修会が開催され一二人が参加した。

講義では「動きあるお寺をめざして」と題し、佐賀教区牛津組光楽寺住職蒲生暁隆師が寺院活性化に向けての自坊での取り組みを紹介した。

師は自坊の修復を機に、ご門徒とのコミュニケーションづくりとしてはじめた寺報の発行や既存の行事が消化のための行事になってい

ないか見直しを行い、いつでもだれでも気軽に集えるお寺をめざし、悩み相談やグループ集会、お寺の清掃など新たな行事をはじめたことなどをスライド写真を使い詳しく説明した。

また、毎回行事では、ご門徒とともに計画・実行・点検・見直しのサイクルを繰り返し行い、次の行事に繋げた。その結果同じ問題意識を持つようになり、お寺の行事が寺族の行事ではなく私たち門徒の行事、私のお寺の行事という意識が少しずつ芽生えはじめたと語った。

子ども書道展・絵画展

たくさんのお友だちと一緒に、是非ご出展ください。

作品募集



募集期間 9月1日から10月末日
出展先 本願寺鷺森別院 (和歌山教区教務所)
表彰日 12月10日(土) (子どもの報恩講)
対象 幼稚園児~中学校3年生

詳細は別紙をご覧ください。
お問い合わせは、
和歌山教区少年連盟事務局
(和歌山教区教務所)まで。

和歌山教区少年連盟

別院だより

鷺森別院

【常例法座】毎月十五・十六日

午後一時半より

十月 武藤幸久師 (岐阜教区)

【秋季彼岸会】

九月二十二日~二十四日

午後一時半より

安部敏孝師 (安芸教区)

日高別院

【秋季彼岸会】

九月二十日 午後一時半より

桐山六字日高別院輪番



【常例法座】

十月二十日 午後一時半より

武藤幸久師 (岐阜教区)

得度

西岡 顯教 和歌山東組 蓮光寺

栗本みずほ 和歌山西組 徳号寺

森 薫 海南組 教法寺

笹野 覚 御坊組 一念寺

教師

藤下 法紹 和歌山組 西法寺

松本恵理子 和歌山東組 光永寺

逝去

垣内 昭子 和歌山西組 西勝寺

前坊守 平成十七年五月四日

永原 智徳 日高組 教専寺

前任職 平成十七年五月五日

岩本 諦良 有田北組 西明寺

住職 平成十七年五月十一日

今本トヨ子 和歌山東組 善教寺

坊守 平成十七年六月八日

吾勝 常晃 加茂組 真教寺

住職 平成十七年六月十二日

武内 紀子 和歌山北組 善勝寺

前坊守・衆徒 平成十七年八月十二日

小山 憲祐 和歌山東組 妙祐寺

住職 平成十七年八月十四日

ご生前のご苦勞を偲び、謹んで
敬申の意を表します。